

## ～海外交流研修を終えて～

大沼中学校 2年 <sup>たくみ</sup> 宅見 <sup>あきと</sup> 空道

### はじめに

このような特別な機会を頂けたことにとっても嬉しく、有難く思っています。姉が交流員の一員としてコンコードへ行った約6年前、そのころ僕は小学2年生だったと思います。そのころから小さな憧れを持っていた自分が中学生になり、それが間近に迫ってきて、その憧れが現実となりました。この研修では二度とできないような体験ばかりで、とても勉強になりました。

### 10月3日 出発当日

いつもよりも少し早い朝を迎え、出発の準備へと取り掛かりました。少し早い目覚めではあったがいつも通りの朝でした。いざ空港へ行き出発となると、搭乗ゲートのガラス越しに見る家族の姿が旅立ちを実感させ、緊張感が湧き出てきました。

成田ではかなりの時間があったので、せっかくだからということで出国前最後の日本食として少し品のいいお寿司を食べ、中高生の事前の確認を行い、無事出国しました。飛行機の13時間という長い長いフライト中は、緊張や不安もあり、いろいろなことを考えていました。更にはこんな国際線の立派な飛行機（なんと最新鋭のボーイング787！）に乗るのは初めてで、初日、現地に向かうだけでもたくさんの経験をしました。

ボストンへ着くと入国検査も10秒ほど（早すぎ）で無事切り抜けました。すると到着ロビーの前では「ようこそコンコードへ」という横断幕が迎えてくれました！まだ緊張や不安はありましたが、勇気が湧いてきました。ボストンからハイウェイで20～30分ほどかけてコンコードへ行き、コンコード・カーライルハイスクール（以下CCHSと略）へ到着すると、さっそく現地の方の心の温かさを感じることができました。スーツケースが、、、なくなっていたのです！正直「アメリカに来ていきなり盗まれた！？」と思ったのですがよく見ると高校の中にもう運んでくれてありました。そこでホストファミリーと合流し、軽食を食べて帰りました。もう日が暮れていたのですが、ホストファミリーに「ピザ食べに行くよ！疲れてない？」と言われました。僕は少し疲れていたのですが張り切ってしまう、「大丈夫！」と言ってピザを食べに行きました。そこには七中の開渡君とそのファミリーもいて、一緒に食べました。アメリカについて最初の食事はミートピザとちょっと大きめのボトルのコカコーラでした。帰ると、僕からプレゼントを渡す前に先にホストファミ



ホストファミリーと

リーからプレゼントをもらい、とてもうれしかったです。ちなみにホストファミリーはフロイド家で、ウエストコンコードの有名なアイスクリーム屋さんの上の家で、アイスは食べ放題でした。その日はもう遅いから寝ていいよと言われ、すぐに寝ました。

#### 10月4日～10月8日 コンコードでの滞在

コンコード1日目の朝、目が覚めたのは5時でしたが、時差ぼけのせいではありませんでした。ホストファミリーが起きるのは6時半ごろなのでまだ時間がありましたが、日本の今の様子でも調べようと思い、起きてパソコンを開きました。また、軽くまとめの準備も作成しておきました。

朝ごはんは毎日トーストやシリアルなどでした。コンコードの特産品であるブドウのジャムをトーストに塗って食べるのがとてもおいしかったです。

昼間はホストファミリーのデービソンと登校しました。高校へは4日～6日の3日間通い、デービソンと一緒に授業を受けたり、いろいろなクラスやクラブへ参加したり、ラジオやテレビに出演したりなど、様々なことを行いました。一緒に受けた授業は到底理解はできませんでしたが、みんなが軽食を取りながら授業を受ける姿を見て、アメリカらしさを感じさせられました。テレビではうまく自分の言いたいことを伝えることができず、少し残念でした。

また、僕が吹奏楽部員ということもあり、特別に CCHS の吹奏楽クラブにも参加し、一緒にチューバを吹かせていただきました。初見での演奏だったため難しかったけど、とてもいい時間でした。

日本文化の紹介もカフェテリアで行いました。僕は折り紙で折り鶴を紹介しました。不器用な僕ではありましたが、一緒に作って、うまく紹介することができたと思います。

ウォールデンpondやオールドノースブリッジも訪れました。独立戦争を物語る場所を実際にこの目で見られて嬉しかったです。

家へ帰った後は、デービソンのフェンシングを見て、一緒に写真を撮ったり、ステーキを食べたり、ほかのファミリーとレストランへ行ったりと、とても豪華な振る舞いをさせていただきました。

#### 10月7日土曜日

午前中はヘリコプターが来るから見に行こうとホストマザーに誘われていきました。デービソンは疲れたので休んでいました(笑)。残念なことにヘリコプターは降りずに上空を通過して終わりでした。午後からはポットラックパーティーに参加し、沢山楽しませていただきました。何よりもケーキの甘さに一番おどろきました。



ホストブラザーのデービソン (右から2番目)

10月8日 日曜日

この日は丸ごと1日ホストファミリーと過ごす日でしたが、あいにく雨でした。午前中、開渡君とそのファミリーと一緒にリンゴ狩りの予定が、雨のためリンゴ買いになりました。午後はデービソンと開渡君とそのファミリーのアレックスと一緒にハイウェイのすぐそばにあるショッピングセンターに行きました。お昼はアメリカのお寿司を食べました。デービソンが興味のあるマイクロソフトのお店やゲームショップ、その他雑貨屋さんなどをいろいろ見て歩きました。



10月9日 ポストンへ

この日はハーバード大学を見学し、ボストンのクインシーマーケットで昼食をとり、ウォルサム町のコストコで買い物をしました。ハーバード大学では古い建物や大きな建物を見て、「すごい」という感想しかありませんでした。すぐそばの生協で買い物をしましたが、ここで何と予算オーバー。ホストファミリーの家にお金を置いてあって、もっと持ってくるべきだったと後悔しています…クインシーマーケットでは、昼食を頼んだらとても多くて、食べきれそうにありませんでした。コストコでは、せっかくいろんなものがあるにも関わらず、お金のない僕はkissesという大量に入ったチョコを買ったのみでした。

10月10日 ニューヨークへ

この日の朝はとても早く、朝6時半に集合でした。ファミリーそろって5時起きでした。いつも通りの朝食を済ませ、出発。そして最後、ホストファミリーと別れるときに、目の中に涙をためながら「ありがとうございました。とてもいい滞在ができました。」と言いました。そして写真も撮り、手を振ってお別れしました。少し悲しかったです（もっと居たかった）。バスの中でPCを開くと、ホストマザーのジェニファーさんからメールがたくさん届いていました。写真や動画を送ってくれました。たった数日の間でしたが、とてもいい日々が回想されました。

ニューヨークにつくと、まずロックフェラーセンターの展望台に行きました。展望台から見る大都市ニューヨークの街並みは壮大でした。夕食はタイムズスクエアのレストランでパスタを食べました。その後、お土産の買い物なども兼ねて少し散策しながらホテルに戻りました。タイムズスクエアの電光掲示板はまるで昼間のように明るく輝いていました。

10月11日 ニューヨークでの滞在

この日は1日ニューヨークでの滞在でした。朝食はコンコードグレープのジャムがつ

いているトースト。甘かったけれどおいしかったです。

まずこの日最初に行ったのが国連本部。国連ツアーに参加し、本会議場などを見せていただきました。こんなにも珍しいものが見ることができて僕はとても興奮しました。

昼食をとった後、リバティ島へ行きました。大きく聳え立つ自由の女神像はとても迫力がありました。やはりニューヨークにきたらこれを見るととても実感がわきます。その帰りの船ではニューヨークの街並みを眺めて、とても気持ちがよかったです。また、飛行機が広告を吊るして飛んでいたり、カップルらしき人が連続で kiss していたりと珍しい光景も見ることができました。

## 10月12日～13日 帰国

この日は帰国する日。コンコードと同じように、もっといたいと思っていました。そして無事出国検査も通り、帰国することができました。

この日は成田で1泊したのですが、帰りの飛行機では全然眠れなかったため、完全に時差ぼけになっていました。成田のホテルでは何度も眠りかけてしまい、相当時差ぼけしていたようです。(この症状は1週間近く続きました)

そして14日、無事函館に到着し、家族に迎え入れられ、お寿司で締めました。  
～お寿司で始まりお寿司で終わる研修でした～

## 最後に

ここまでたくさんの体験を述べてきましたが、まとめると以下ようになります。

今回の研修でいろいろなことを学びました。コンコード・アメリカの歴史、アメリカの文化・生活習慣、英語力の向上などなど。僕が学びたかったのはまさにこのようなことでした。ホームステイという貴重な体験によってこれらをしっかりと学ぶことができました。ですが、他にも学んだことはたくさんあります。一番学び、そしてもらうことができたのは、「現地の方々の心の温かさ」だと僕は思います。僕の最初のイメージは「アメリカ人はみんな乱雑だ」でした。確かに空港などの対応は日本に比べてよくないところはありますが、人々全体を考えると、笑顔で接し、とても歓迎してくれて、親切にしてくれて、楽しく接してくれて。僕はたくさんの愛をもらうことができました。

この研修のことは一生忘れません。できることならばまた個人でも現地に行きたいほどです。この研修で学んだことは決して忘れず、これからの生活全てに生かしていきたいと思いました。また、これからも両町の架け橋として繋いでいけるようにしたいと思います。

今回、この研修に協力してくださった現地の方々、ホストファミリー、七飯町の関係者の皆さん、そして今回ご一緒した皆さんに感謝をし、報告書とさせていただきます。本当に今回の研修はたくさんのことを学ぶことができました。改めてありがとうございました。